

三井住友・DC年金 バランスゼロ(債券型)

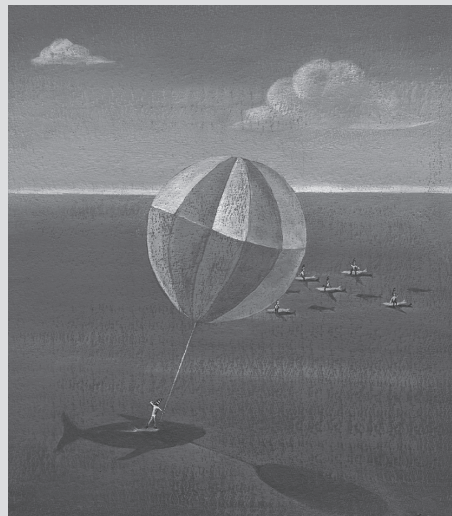
【愛称：マイパッケージZERO】

追加型投信／内外／債券／インデックス型

日経新聞掲載名：DCマゼロ

2022年2月19日から2023年2月20日まで

第 8 期 決算日：2023年2月20日



受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、日本を含む世界各国の公社債に分散投資することにより、信託財産の着実な成長を目指した運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

 **三井住友DSアセットマネジメント**
〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

当期の状況

基準価額(期末)	10,011円
純資産総額(期末)	231百万円
騰落率(当期)	-2.8%
分配金合計(当期)	0円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

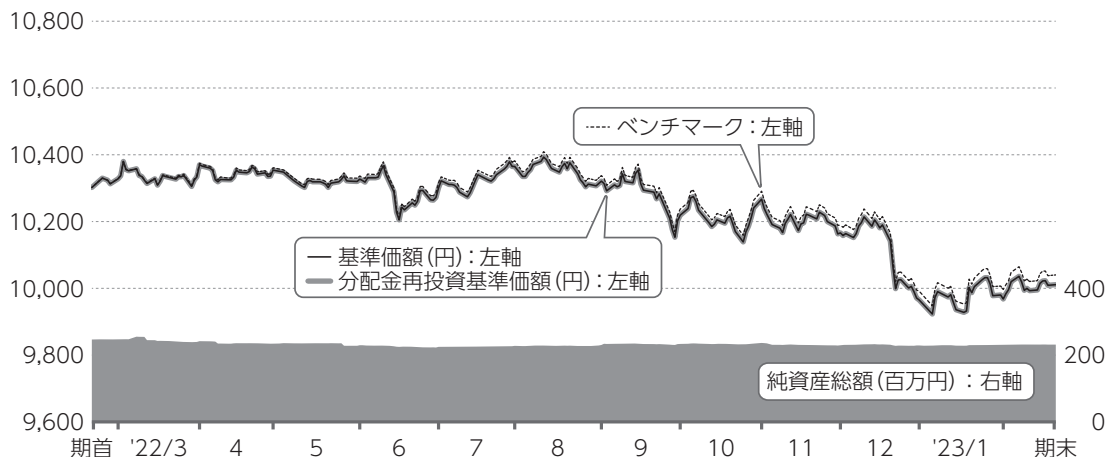
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2022年2月19日から2023年2月20日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	10,302円
期末	10,011円 (既払分配金0円(税引前))
騰落率	-2.8% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドのベンチマークは、NOMURA-BPI(総合)75%、F T S E 世界国債インデックス(除く日本、円ベース)20%および有担保コール翌日物5%を基本資産配分で組み合わせ合わせた合成指数です。

※ベンチマークを構成する各指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因(2022年2月19日から2023年2月20日まで)

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本を含む世界各国の公社債に分散投資を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

上昇要因

- 円に対して、米ドル・ユーロが上昇したこと

下落要因

- 内外債券市場が下落したこと

組入れファンドの状況

組入れファンド	投資資産	基本資産配分	期末組入比率
国内債券パッシブ・マザーファンド	国内債券	75%	75.0%
外国債券パッシブ・マザーファンド	外国債券	20%	20.2%
—	短期金融資産	5%	4.8%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

1万口当たりの費用明細(2022年2月19日から2023年2月20日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	25円	0.243%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は10,238円です。
(投信会社)	(10)	(0.100)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(11)	(0.111)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.033)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(－)	(－)	
(先物・オプション)	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(－)	(－)	
(公社債)	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(d) その他費用	1	0.014	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.008)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.005)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	26	0.257	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

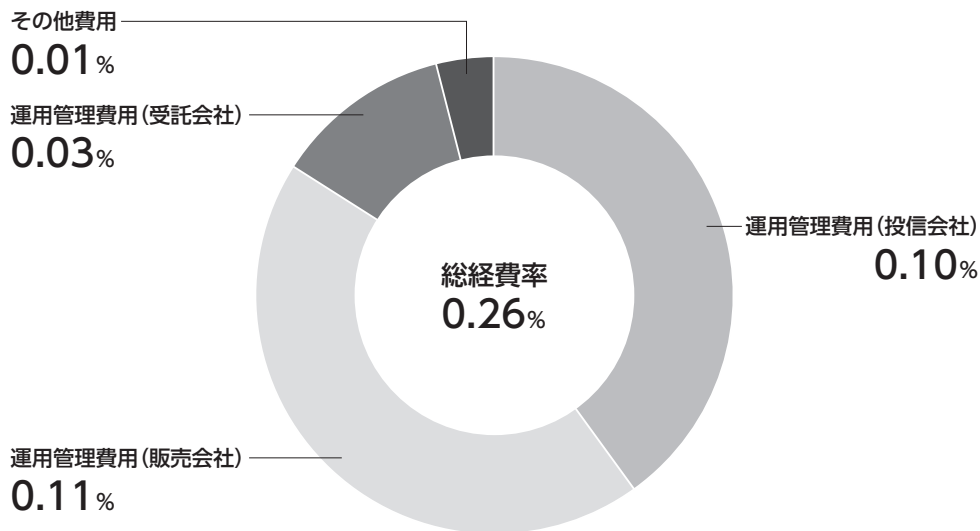
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。



参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

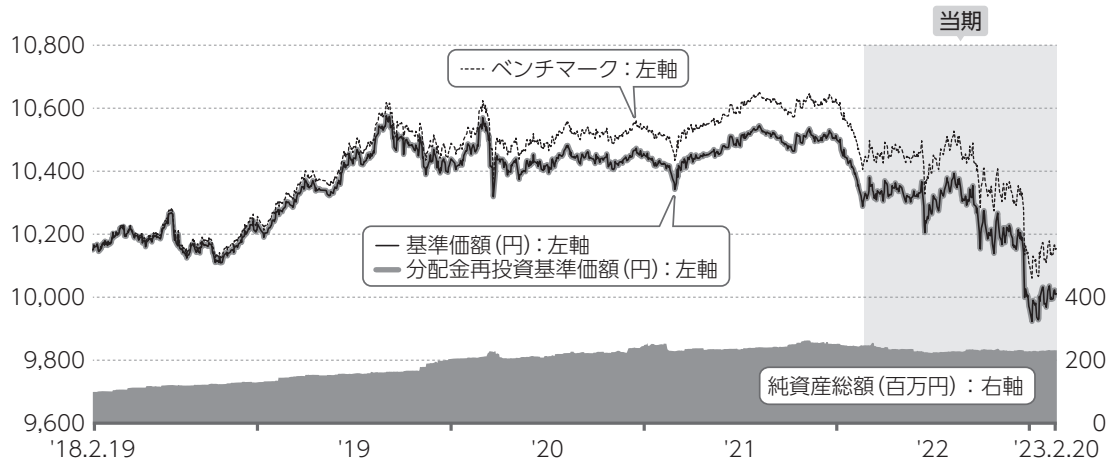
※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は0.26%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年2月19日から2023年2月20日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年2月19日の値が基準価額と同一となるように指数化していません。

	2018.2.19 決算日	2019.2.18 決算日	2020.2.18 決算日	2021.2.18 決算日	2022.2.18 決算日	2023.2.20 決算日
基準価額 (円)	10,150	10,285	10,484	10,400	10,302	10,011
期間分配金合計(税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	1.3	1.9	-0.8	-0.9	-2.8
ベンチマーク騰落率 (%)	—	1.6	2.2	-0.5	-0.7	-2.5
純資産総額 (百万円)	98	144	207	229	246	231

投資環境について(2022年2月19日から2023年2月20日まで)

内外債券市場は下落しました。為替市場は米ドル・ユーロともに対円で上昇しました。

国内債券

期を通じて、日本の長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。

期初から12月中旬にかけては、米国の景気悪化への懸念の高まりにより、一時的に長期金利が低下することもありましたが、ほぼ横ばいで推移しました。その後、日銀が予想外に長期金利の許容変動幅を広げたことを受けて、大きく上昇しました。

外国債券

期を通じて、米欧の長期金利は上昇しました。

期中には、FOMC(米連邦公開市場委員会)の金融引き締めスタンス継続を背景に、米欧の長期金利はともに上昇しました。その後、物価指標が市場予想を下回りインフレのピークアウトが意識され、米欧が利上げペースの鈍化に踏み切るとの観測から、金利は一時的に低下する場面も見られましたが、期を通じてみると、上昇基調で推移しました。

外国為替

●米ドル・円

期末の米ドル・円は、期初と比較して円安となりました。

期中にFRB(米連邦準備制度理事会)が金融引き締めを積極化した一方で、日銀が緩和姿勢を継続したことによる日米金利差拡大などを背景に米ドル高・円安基調となりました。日銀が予想外に長期金利の許容変動幅を広げたことを受けて、一時的に円高方向に推移する場面もありましたが、期を通じては、米ドルが円に対して上昇基調で推移しました。

●ユーロ・円

期末のユーロ・円についても、期初と比較して円安となりました。

期を通じては、日欧金利差拡大などを背景に、ユーロが円に対して上昇基調で推移しました。

ポートフォリオについて(2022年2月19日から2023年2月20日まで)

当ファンド

マザーファンドへの投資を通じて、主として内外の公社債に国際分散投資を行いました。時価変動等に伴う組入比率の変化については、追加設定や一部解約といった資金流入に応じて各マザーファンドの売買を通じて資産配分の基準値からの乖離を調整しました。

国内債券パッシブ・マザーファンド

ベンチマークであるNOMURA-BPI(総合)の動きに連動する投資成果を目指した運用を行いました。

具体的には、デュレーション(投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度)、満期・債券種別・格付け構成などをベンチマークに合わせて、個別銘柄については分散投資を図りました。また、指数構成銘柄に変更がある毎月末において、ファンドの特性値(デュレーションなど)をベンチマークに合わせてポートフォリオのリバランス(投資配分比率の調整)を行いました。組入比率は期を通じて高位を保ちました。

外国債券パッシブ・マザーファンド

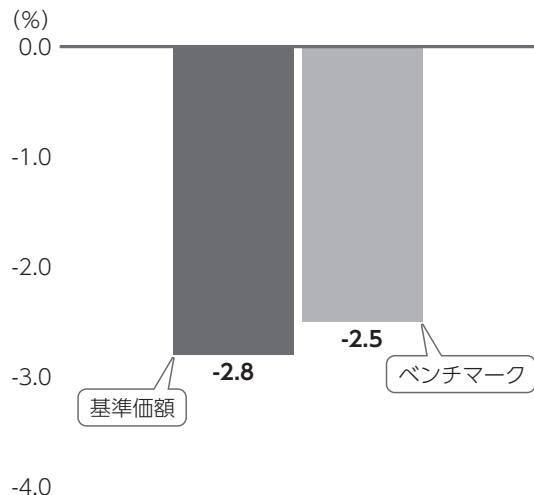
ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)の動きに連動する投資成果を目指した運用を行いました。

具体的には、通貨・国別配分、デュレーション、満期構成等を可能な限りベンチマークに近似させるよう調整しました。

インデックス構成銘柄の変更が実施される毎月末において、ファンドの特性値(国別比率、デュレーション等)をベンチマークに合わせてポートフォリオのリバランスを行いました。組入比率は期を通じて高位を保ちました。

ベンチマークとの差異について(2022年2月19日から2023年2月20日まで)

基準価額とベンチマークの騰落率対比



当ファンドは、NOMURA-BPI(総合)を75%、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)を20%および有担保コール翌日物を5%の割合で組み合わせた合成指数をベンチマークとしています。

左のグラフは、基準価額とベンチマークの騰落率の対比です。

※基準価額は分配金再投資ベース

ベンチマークとの差異の状況および要因

基準価額の騰落率は-2.8%(分配金再投資ベース)となり、ベンチマークの騰落率-2.5%を0.3%下方乖離しました。

下方乖離要因

- 信託報酬等の支払い

分配金について(2022年2月19日から2023年2月20日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第8期
当期分配金	0
(対基準価額比率)	(0.00%)
当期の収益	-
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	734

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の分配は、複利効果による信託財産の成長を優先するため、見送りとしたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

当ファンド

引き続きマザーファンドへの投資を通じて、内外の公社債に国際分散投資を行うことにより、信託財産の着実な成長を目指します。

国内債券パッシブ・マザーファンド

引き続き、NOMURA-BPI(総合)に連動する投資成果を目指して運用を行います。デュレーション、満期構成、流動性などを考慮して選択した債券に分散投資し、債券組入比率を高位に保つことを基本とします。

外国債券パッシブ・マザーファンド

引き続き、FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)に連動する投資成果を目指して運用を行います。

通貨・国別配分、満期構成、デュレーション等を可能な限りベンチマークに近似させるよう調整します。

また月次のベンチマーク更新時や、日々の資金流入出に対応し、迅速なリバランスを行います。

債券組入比率は高位に保つことを基本とします。

3 お知らせ

約款変更について

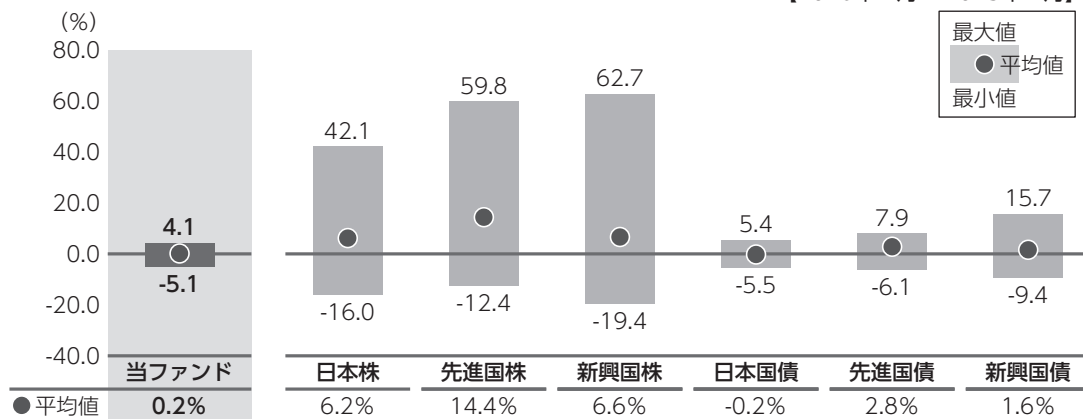
該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券／インデックス型
信託期間	無期限(設定日：2014年12月15日)
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、日本を含む世界各国の公社債に分散投資することにより、信託財産の着実な成長を目指した運用を行います。
	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。
主要投資対象	国内債券パッシブ・マザーファンド 日本の公社債および短期金融資産
	外国債券パッシブ・マザーファンド 日本を除く世界各国の債券
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ■内外の公社債に投資する2つのマザーファンドの組入れを通じて、日本を含む世界各国の公社債に分散投資することにより、信託財産の着実な成長を目指した運用を行います。 ■国内債券、外国債券および短期金融資産への実質的な基本資産配分は、国内債券75%、外国債券20%、短期金融資産5%とします。 ■運用にあたっては、委託会社が独自に作成した合成指数をベンチマークとし、中長期的にベンチマークに連動する投資成果を目指します。 ■実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わないことを基本とします。
組入制限	当ファンド <ul style="list-style-type: none"> ■株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ■外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の50%以下とします。
	国内債券パッシブ・マザーファンド <ul style="list-style-type: none"> ■株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ■外貨建資産への投資は行いません。 外国債券パッシブ・マザーファンド <ul style="list-style-type: none"> ■株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> ■年1回(原則として毎年2月18日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配金額を決定します。 ■分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子、配当収益と売買益(評価損益を含みます。)等の全額とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>
	<p>ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。 (基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。)</p>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

【2018年2月～2023年1月】



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX (配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCI コクサイインデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI (国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

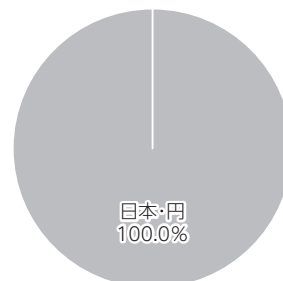
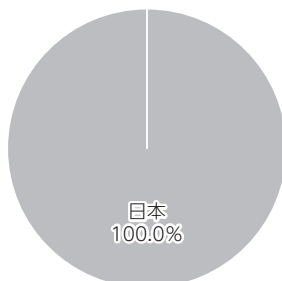
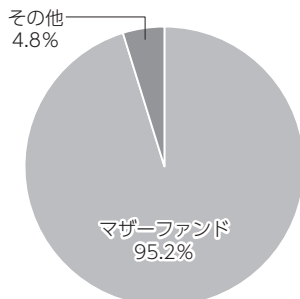
当ファンドの組入資産の内容(2023年2月20日)

組入れファンド等

銘柄名	組入比率
国内債券パッシブ・マザーファンド	75.0%
外国債券パッシブ・マザーファンド	20.2%
コールローン等、その他	4.8%

※比率は、純資産総額に対する割合です。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

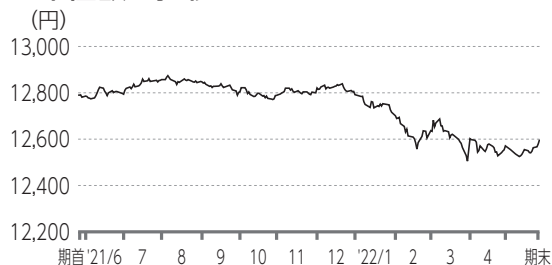
項目		第8期末 2023年2月20日
純資産総額	(円)	231,487,176
受益権総口数	(口)	231,221,395
1万口当たり基準価額	(円)	10,011

※当期における、追加設定元本額は50,654,884円、解約元本額は58,957,980円です。

組入上位ファンドの概要

国内債券パッシブ・マザーファンド(2021年5月26日から2022年5月25日まで)

基準価額の推移



組入上位銘柄

(基準日：2022年5月25日)

	銘柄名	組入比率
1	435 2年国債	2.6%
2	150 5年国債	1.6%
3	146 5年国債	1.2%
4	147 5年国債	1.2%
5	361 10年国債	1.0%
6	149 5年国債	0.9%
7	359 10年国債	0.9%
8	362 10年国債	0.9%
9	434 2年国債	0.9%
10	358 10年国債	0.8%
	全銘柄数	406銘柄

1万口当たりの費用明細

(単位：円)

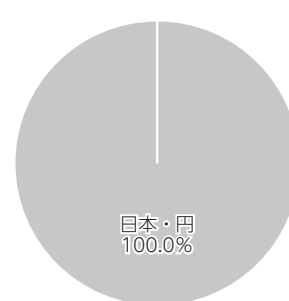
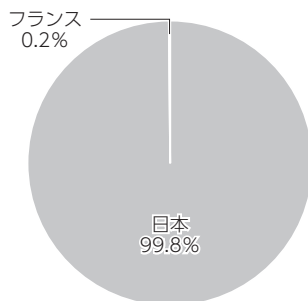
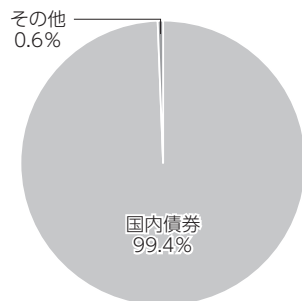
項目	(内訳)	金額	(内訳)
その他費用	(その他)	0	(0)
合計		0	

※項目の概要については、前記「費用明細」をご参照ください。

※比率は、純資産総額に対する割合です。

※全組入銘柄につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

※基準日は2022年5月25日現在です。

外国債券パッシブ・マザーファンド(2021年12月18日から2022年12月19日まで)

基準価額の推移



組入上位銘柄

(基準日：2022年12月19日)

	銘柄名	組入比率
1	US TREASURY N/B 1.625 05/15/26	1.2%
2	US TREASURY N/B 2.25 03/31/26	1.1%
3	US TREASURY N/B 2.875 05/15/28	0.8%
4	US TREASURY N/B 0.125 02/15/24	0.6%
5	CHINA GOVERNMENT BOND 2.69 08/12/26	0.6%
6	US TREASURY N/B 1.125 02/15/31	0.6%
7	US TREASURY N/B 1.375 08/31/26	0.6%
8	US TREASURY N/B 2.125 03/31/24	0.6%
9	CHINA GOVERNMENT BOND 3.02 05/27/31	0.5%
10	US TREASURY N/B 0.625 12/31/27	0.5%
	全銘柄数	628銘柄

1万口当たりの費用明細

(単位：円)

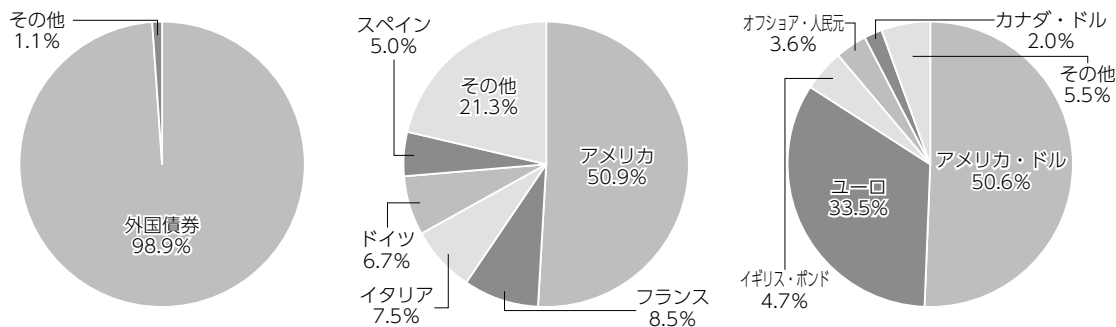
項目	内訳	金額	内訳
その他費用	(保管費用)	8	(8)
	(その他)		(0)
合計		8	

※項目の概要については、前記「費用明細」をご参照ください。

※比率は、純資産総額に対する割合です。

※全組入銘柄につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

※基準日は2022年12月19日現在です。